

平成22年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

カガナ カゲヤマ ホナミ
氏名 影山 穂波

研究期間 平成22年度

研究課題名 ハワイにおける日本人女性のネットワーク形成

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	影山穂波	国際コミュニケーション	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等

本研究の目的は、ホノルルにおける戦後移住の日本人の「居住空間」とジェンダーの関係を明らかにすることである。ホノルル都市圏における在留日本人、とくに戦後移住した新一世の女性たちに注目し、ホノルルにおける都市空間の形成と日本人ネットワークの分析を行う。具体的には、まず移住という国際移動によるグローバルな動向において、日本人がハワイにおいてどのような位置づけにあったのかを検討する。またローカルな地域社会において、戦後移住の新一世日本人が主体となり形成された活動が展開されることで、どのような社会空間が形成され、メンバーの生活空間にどのような影響を与えているのかを明らかにするため、ネットワーク活動とともに、メンバーのライフストーリーを調査する。

2. 研究方法等

- ・1976年に発刊されたEast West Journalに掲載された、戦後ハワイに移住してきた日本人に関する記事を分析し、日本人の生活・文化を明らかにした。
- ・ホノルルにおいて展開されているネットワーク（主婦ソサエティ、日本文化センターギャラリーリーダーセント、カトレア会、虹の集い、お茶会、ガイア）に関する調査を継続して実施した。今回は、「お茶会」の活動に参加して、話を聞いた。
- ・国際結婚をし、調査当時ハワイで生活をしている日本人（新一世）女性に対して、個別にライフストーリーの聞き取り調査を実施した。

3. 研究成果の概要

日本からの国際移動者に注目し、ホノルルを事例に調査を実施した。まず日本からの資本が、生活する人々、とくに女性たちに与えた影響を、イースト・ウェスト・ジャーナルを中心に分析した。

また今回のフィールド調査では「お茶会」の活動に参加し、家族を巻きこんでハワイにおけるネットワークを形成している状況を検討した。この活動の参加者は、就労している人が多い。週末の夜を利用して、交流会を兼ねた情報交換を行っている。この会に参加することで、女性の抱える問題点を検討するとともに、人的ネットワークの拡大を図っていた。中心は日本人であるが、家族や友人など、参加者は日本人に限られていない。

フィールドワークの期間中に7人の国際結婚をしている日本人女性にライフストーリーの聞き取り調査を実施した。ヒアリングの結果、国際結婚により、生活水準が下がった女性が多いことが分かった。彼女たちは、生活水準よりも日常生活での感情的豊かさを求めている。また問題に直面した際の解決により相互の関係が深まっていく過程を語ってくれた。パートナーが日本人ではないことで言葉のみならず文化的な相違から誤解が生じるが、それを納得するまで話し合うことでお互い個人や、相互の文化を理解するきっかけとなっていたと語った人もいる。市民権の取得の有無は国際結婚をした日本人にとって意識に相違点が見られた。国籍をアイデンティティの一つと市民権を見る人、永住権では出入国に不便が生じる可能性があるために市民権を持ちたいと考える人、永住権しか念頭にない人、それぞれの意識が、ハワイにおける位置づけを選択しているようである。

ハワイにおける新一世日本人女性は多様であり、一般化することは困難であるが、国際移動による意識の変化が生じることで、覚悟を決めて生活を始めている一面を見ることができた。さらなる調査と分析が今後の課題である。

4. キーワード

①ハワイ	②ジェンダー	③新一世	④ネットワーク
⑤ライフストーリー	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

研究成果は次年度の大学の研究論集に執筆する予定である。